

4 高校の先生方が進路指導でお困りの点

(1) 最も困っている点は、個々の生徒への十分な対応ができてにくいこと

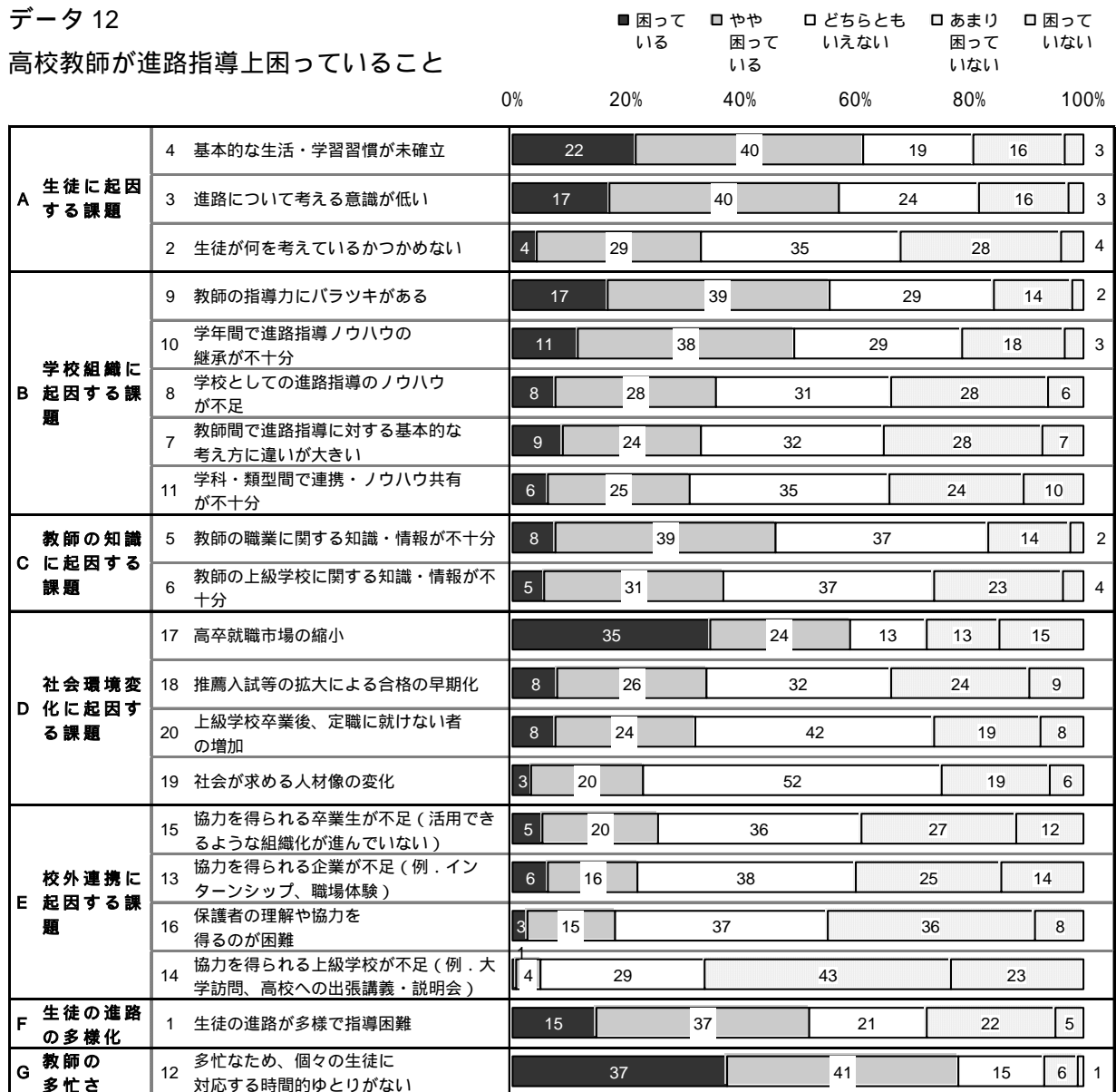
・ 教師の多忙さ / 生徒の進路の多様化

進路指導上お困りの点として、最も数値が高かった項目は「12. 多忙なため個々の生徒に対応する時間がないこと(78%: 困っている + やや困っている)」であった(データ12)。この傾向は1997年の調査結果と同様であるが、今回の調査で数値は10ポイント以上増加している(97年67% 04年78%: データ13注)。

注: 1997年調査と2004年調査では、選択肢の構成が異なるため数値を単純に比較できないが、大きな傾向は読み取ることができる(詳しくはデータ13脚注参照)。

データ12

高校教師が進路指導上困っていること



フリーアンサー（自由記述欄）には、「週5日制の影響」や「少子化による教員数の減少（講師の増加）」、「生徒の進路先の多様化や、個別に指導が必要な生徒が増えている一方でスタッフ増は難しく、十分な対応がしにくい」などの記述が見られる。また、多忙さの結果として教職員間のコミュニケーション・意思統一などに当てられる時間が少なくなりがちだという記入は全ての学校類型で見られた。

データ13からは「2. 生徒が何を考えているかつかめない」、「3. 生徒の自分の進路について考えようとする意識が低い」など、A生徒に起因する課題の数値が97年とほとんど変わらない一方で、F生徒の進路の多様化（生徒の進路が多様で指導が困難）は97年調査に比べ14ポイントも増加していることが分かる。

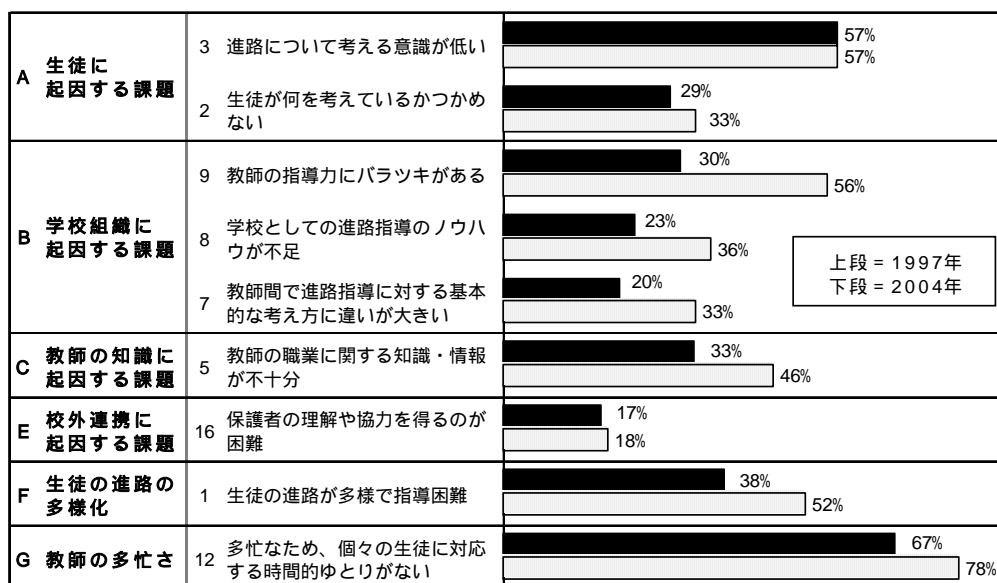
社会環境変化の影響

「17. 高卒就職市場の縮小（59%：データ12）」は全質問項目の中で2番目に数値が高かった。特に、普通科進路多様校群、総合学科、専門学科での数値が高い（データ14-1）。フリーアンサーにも「魅力的な求人が無いことも災いしてフリーターを増やすことになっているのではないか。大企業でも派遣、請負などの社員が多く、就職を斡旋しにくい。雇用形態自体が若年労働者を守るあるいは育てる形になっていない」、「求人がかなり少なく生徒が目標を持ちにくい」など、高卒時の就労環境の変化への対応に苦慮されている声が多く目立った。

また家庭の経済状況の厳しさや、それに伴う進路変更から生じる課題（進学から就職に変更したが就職が厳しいのでフリーターになってしまうケースなど）についての言及もあった。

フリーターの問題については、生徒の意識として「フリーター希望者の増加」、「アルバイト先は沢山ある現状（正社員が少ない）に不満をもらす生徒が少ない」などの指摘がある。

データ13 高校教師が進路指導上困っていること（1997年と2004年の比較）



1997年調査 = 「3困っている」「2どちらとも言えない」「1困っていない」の3件法（グラフの値は「3」の選択率）

2004年調査 = 「5困っている」「4やや困っている」「3どちらとも言えない」「2あまり困っていない」「1困っていない」の5件法（グラフの値は「4」「5」の選択率の和）

また、保護者については「フリーターを安易に認めてしまう」「定職につくことの意義を重視していない」などのケースが出てきたことへの戸惑いの声が見られた。

一方で、「19. 社会が求める人材像の変化(23%：データ 12)」の具体例としては、「企業の要望も更に高くなってきており、より完成された人材が欲しいと言われる事が多い」、「新規高卒社員に対して即戦力を求められる」という記述が専門高校から寄せられた。

・ 推薦入試等の拡大による合格の早期化

「18. 推薦入試等の拡大による合格の早期化(34%)」に関しては、「合格がゴールになってしまい合格後に学習意欲が下がる」、「結果として低学力で進学してしまっている」等の記述が見られる。学校類型では普通科の数値が高い(データ 14-1)。

データ 14-1 高校教師が進路指導上困っていること(学校類型別：数表)

	全体	普通科		普通科		総合 学科	専門学科		
		A	B	C	多		小計	商業	工業
A 生徒に起因する課題	32.5	(12.0)	(21.6)	29.9	40.2	44.5*	37.0	34.6	34.8
4 基本的な生活・学習習慣が未確立	41.6	(17.0)	(28.7)	40.1	51.0*	60.4*	44.0	39.4	40.1
3 進路について考える意識が低い	37.1	(11.9)	(24.9)	33.5	47.1*	43.3	42.6	41.7	39.6
2 生徒が何を考えているかつかめない	18.7	(7.2)	(11.2)	(16.2)	22.6	29.9*	24.4	22.7	24.8
B 学校組織に起因する課題	25.5	18.2	24.1	29.6	25.4	35.3*	23.3	31.7	20.1
9 教師の指導力にバラツキがある	36.1	(30.4)	35.3	42.7*	36.4	40.3	(29.7)	41.7	(27.0)
10 学年間で進路指導ノウハウの継承が不十分	30.4	(23.7)	29.2	32.5	29.9	43.3*	30.0	39.4	(25.2)
8 学校としての進路指導のノウハウが不足	21.6	(11.9)	(18.1)	25.3	22.9	36.6*	(19.1)	25.8	(14.9)
7 教師間で進路指導に対する基本的な考え方に違いが大きい	20.9	(16.5)	21.0	27.0	19.3	26.9	(17.3)	29.5*	(13.5)
11 学科・類型間で連携・ノウハウ共有が不十分	18.7	(8.6)	(16.6)	20.4	18.5	29.5*	20.3	22.0	19.8
C 教師の知識に起因する課題	24.0	18.8	21.2	25.8	25.6	35.8	21.1	28.8	16.2
5 教師の職業に関する知識・情報が不十分	26.9	(22.7)	24.9	29.0	28.6	40.3*	(21.6)	27.3	(16.7)
6 教師の上級学校に関する知識・情報が不十分	21.1	(14.9)	(17.5)	22.6	22.6	31.3*	20.7	30.3*	(15.8)
D 社会環境変化に起因する課題	25.1	4.5	12.7	24.6	33.6*	33.1*	28.6	33.5*	25.8
17 高卒就職市場の縮小	46.9	(1.6)	(14.1)	(37.0)	67.2	72.4*	66.0	72.0*	55.0
18 推薦入試等の拡大による合格の早期化	20.8	(4.1)	(15.7)	30.6	26.1	22.4	(10.3)	(15.9)	(9.5)
20 上級学校卒業後、定職に就けない者の増加	19.8	(6.7)	(13.4)	20.5	25.0	20.5	20.5	28.0*	20.9
19 社会が求める人材像の変化	13.0	(5.7)	(7.7)	(10.4)	16.2	17.2*	17.6*	18.2*	18.0*
E 校外連携に起因する課題	10.6	3.5	6.7	8.7	14.1	18.8	11.0	10.4	10.8
15 協力を得られる卒業生が不足 (活用できるような組織化が進んでいない)	15.4	(7.7)	13.9	(13.0)	18.3	27.6*	(13.3)	(9.8)	15.3
13 協力を得られる企業が不足 (例、インターンシップ、職場体験)	14.1	(2.6)	(7.2)	(10.7)	19.0	22.4*	18.0	18.9	18.0
16 保護者の理解や協力を得るのが困難	10.3	(1.5)	(3.2)	(8.5)	15.5	20.9*	10.8	12.9	(7.7)
14 協力を得られる上級学校が不足 (例、大学訪問、高校への出張講義・説明会)	2.9	(2.1)	2.7	2.6	3.3	4.5*	(2.1)	(0.0)	(2.3)
F 生徒の進路の多様化									
1 生徒の進路が多様で指導困難	33.4	(12.4)	(19.9)	36.0	42.8	59.0*	(28.8)	37.9	(22.5)
G 教師の多忙さ									
12 多忙なため、個々の生徒に対応する時間的ゆとりがない	57.7	(50.0)	55.4	61.1	58.7	70.9*	54.2	54.5	55.4
	1,765	97	371	328	617	67	285	66	111

数値：「困っている%」+「やや困っている%×0.5」

35ポイント以上にアミ/各項目の最高値及びそれと1ポイント以内に●/□は全体集計値の110%以上、○は90%以下の場合。専門学科の「小計」には「商業」「工業」以外のデータも含む。

- ・ 生徒に起因する課題 / 保護者への対応

A 生徒に起因する課題では「4. 基本的な生活・学習習慣が未確立 (62% : データ 12)」、「3. 進路について考える意識が低い (57%)」などの数値が高い。フリーアンサーにも、生徒の学習習慣や進路について考える意識・姿勢に関連した課題についての記述が複数見られる。その他に「進路を特定しすぎた狭いこだわりを持ち、なかなかアドバイスを受け付けない生徒」、「希望と学力のギャップが大きすぎるのに目標の修正が出来ない生徒」など、かたくなな生徒に対する指導をどのように行っていけばよいか困っているという意見が複数あった。

一方で、「16. 保護者の理解・協力」について「困っている」の数値は 18% で相対的に高くないのだが、フリーアンサーでは、「親子の意見の不一致」、「家庭でのコミュニケーション不足」、「保護者の意識の格差が大きいこと」など、保護者に関する記述が総記述件数の 1 割以上見られた。

- ・ 学校組織に起因する課題

B 学校組織に起因する課題では、「9. 教師の指導力にバラツキがある (56%)」、「10. 学年間で進路指導ノウハウの継承が不十分 (49%)」などの数値が高い。

97 年調査と比べると、このカテゴリで数値の伸びが目立っている (データ 13) が、これは学校自己点検・自己評価活動など組織力について見直す機会の増加によって、先生方の問題意識が高まった影響が大きいと考えられる。

- ・ 校外連携に起因する課題

E 校外連携に起因する課題に関する数値は全体的にそれほど高くない。特に「14. 協力を得られる上級学校が不足」は 5% 以下である。学校類型別の傾向 (データ 14-1) を見ると進学重点校 A・B・C 群、総合学科では「15. 協力を得られる卒業生が不足 (活用できるような組織化が進んでいない)」が高く、普通科進路多様校群、専門学科では「13. 協力を得られる企業が不足」していることがカテゴリ内で最も高い。

(2) 学校類型による違い

データ 14-1 (前掲) は、進路指導上「困っている」とされた度合いを学校類型別にまとめたものである。各項目のうち、最も高い値を示した学校類型の欄に黒マルの印をつけた。データ 14-2 には、そのうち A から E の 5 つのカテゴリごとの平均値をグラフ化し、要素間のバランスをレーダーチャートで示した (学校類型区分は p 2 参照)。

普通科 では、D 社会環境変化に起因する課題への対応や A 生徒に起因する課題についての数値が他の学校類型に比べて低く、相対的に B 学校組織に起因する課題や C 教師の知識に対する課題認識が高くなっている。

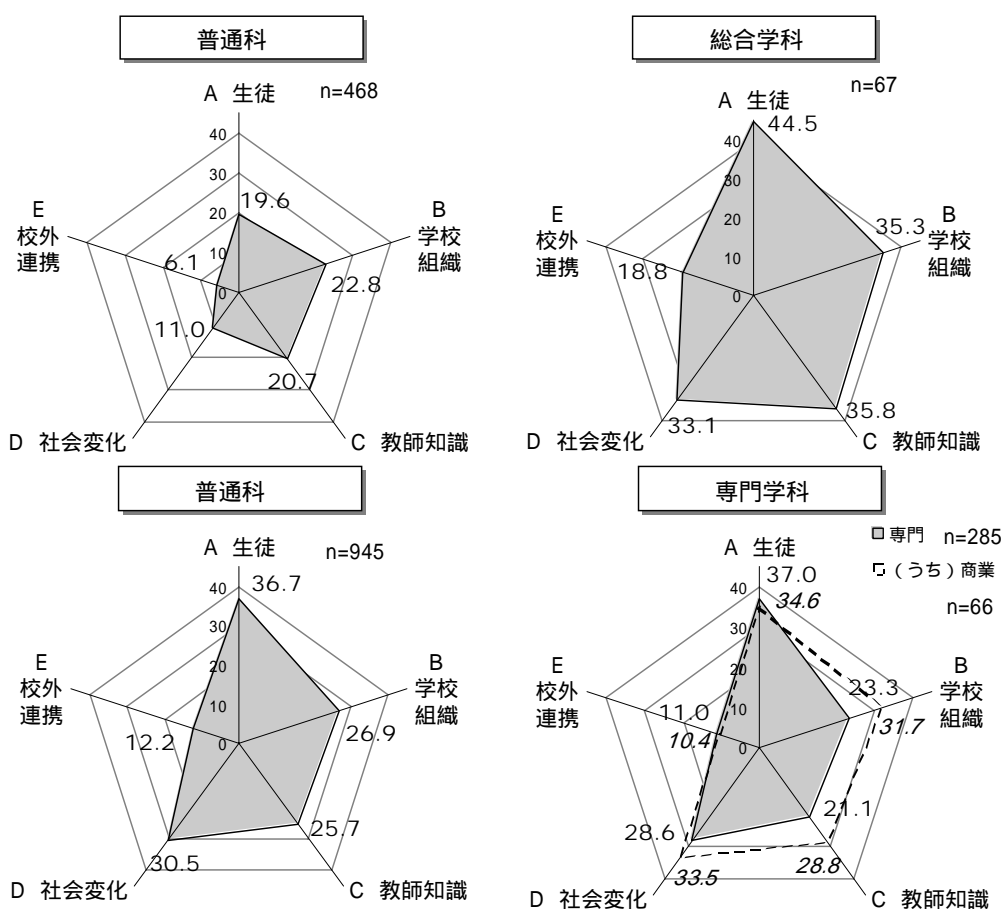
普通科 では、対照的に「17. 高卒就職市場の縮小」、「18. 推薦入試等の拡大による合格の早期化」など D 社会環境変化に起因する課題の数値が高い。また A 生徒に起因する課題の

数値も高い。

総合学科は、全てのカテゴリの数値が高い。新しいタイプの学校形態で先行事例が少ないことや、多様なコース類型や希望進路の生徒たちを抱えている場合が多く、一律に問題が解決されにくい背景などが推測される。

専門学科では、普通科と同様、D社会環境変化に起因する課題とA生徒に起因する課題に対する課題認識が高い。また、商業学科の数値が高いが、求人数の減少と進学者の増加など卒業後の進路状況の変化の特に大きいことが要因として考えられる。

データ 14-2 高校教師が進路指導上困っていること（レーダーチャート）



数値：データ14-1のA～Eの各カテゴリの平均値

(3) フリーアンサーの内容

今回の調査では、質問項目の他にお困りの点があれば、フリーアンサーでのご記入をお願いした。質問項目に類似する事柄についても問題意識を特に強く感じている内容を具体的に説明いただけており、現在の進路指導における課題についてよく知るための重要な資料に

なると思われる。本文中でも部分的に引用させていただいたが、改めて主な記入内容を一部ご紹介したい。なお、内容を整理する目的でいくつかのカテゴリを設けている。カテゴリごとの回答件数と学校類型別の内訳も記載する。

注：総記入者数は224名（普通 = 49、普通 = 130、総合 = 15、専門 = 30）、なお、1人の回答者が複数内容を記入している場合、複数のカテゴリの件数に反映しているため、回答件数の合計数は総記入者数を上回る。

【A】生徒に関する記述（記入件数39：普通 = 8、普通 = 23、総合=4、専門=4）

- ・ 生徒の意識など（21）：進路を特定しすぎてこだわり、広い視野に立って複数の選択肢を設けることができない生徒がいること。（特に希望と学力が極端に乖離している場合）/与えられたことはできるが進路を考慮して自分で計画を立てて学習内容を考える意識が低い。細分化した目標、中長期の目標などが設定できない/礼儀、言葉遣い、態度の悪化
- ・ 学力・学習習慣（12）：入学してくる生徒の学力低下。中学校間の学力格差の拡大。入学者の変化に対応した教科指導の工夫改善が思ったほど進んでいない/校内・クラス内で学力の差が大。落ちこぼれと浮きこぼれが同時に出現
- ・ 個々の希望進路の多様化（6）

【B】保護者・家庭教育に関する記述（記入件数26：普通 = 4、普通 = 17、総合=2、専門=3）

- ・ 子どもの進路への関心の低さ・コミュニケーション不足（12）：保護者向け講演会などに参加しない保護者が多く、学校の方針が全体に伝わらない/子ども任せ、学校任せの保護者が増加/家庭で進路の話題が出ない（コミュニケーションが不足）/生徒の将来にあまり関心をもたない大人が増えて来ている。生徒はそれを敏感に感じている/親の希望と本人の希望が一致しないまま、迷走してしまうケースが増加
- ・ フリーター許容（3）：フリーターを安易に認めてしまう家庭が存在すること/定職に就くことの意義を保護者が重視していない
- ・ 経済的課題（7）：生徒の希望があっても、保護者の経済状態がそれを許さない。進学できない 就職も厳しい フリーターの構図が深刻/上級学校の奨学金制度が不十分

【C】高卒後の就労環境に関する記述（記入件数26：普通 = 18、専門=8）

- ・ 求人数の減少と求人の質の低下（16）：フリーターが増えて問題だとよく言うが、求人票を見ると納得せざるを得ない/生徒が希望する職種からの求人が無い/生徒の就職に対する意識の低さもさることながら、魅力的な求人の無いことも災いしてフリーターを増やすことになっているのではないか。大企業でも派遣、請負などの社員が多く、就職を斡旋しにくい。雇用形態自体が若年労働者を守るあるいは育てる形になっておらずこれでは日本の将来を憂える。この政治、経済の在り方、労働環境そのものを変えてゆかないことには高校生、若者は将来に夢を持ってないのではないか/女子の就職市場が縮小しており、生きがいを持ってない。高校時代のモチベーションを高める事が難しい/就職希望者に対して社会も会社も年々厳しくなっている。若者を育てようという意識の低下
- ・ フリーター（希望者）の増加（5）：アルバイト先は沢山ある現状（正社員が少ない）に不満をもらす生徒が少ない/フリーター第1希望者の増加
- ・ 早期離職（3）：学校研究・企業研究の不足で進学・就職後に退学・退職するケースが増え始めた
- ・ 即戦力の要求（2）：職業系高校として企業の要求に応える人材育成に力を注いでいるつもりであるが、企業の要望も更に高くなってきており、より完成された人材が欲しいと言われる事が多い。一般社会人並みの人間性を求めてくる企業が増えてきており、高校教育とのギャップ・限界に悩む。

【D】「多忙さ」に関する記述（記入件数43：普通 =7、普通 =25、総合=6、専門=5）

- ・ 事務的業務量の増大(18)：毎日のように郵便物がきて、その量がおどろくほど多くて困っている。処理するのに2,3時間かかってしまう。業者の宣伝目的のものが多すぎる/会計処理が年々煩雑になっており、時間を取られる
- ・ スタッフ数の不足(11)：教員の数が少ないため個別に対応が必要な生徒は増えているのに(多様化)充分な手当ができない/少子化財政難のためか教諭が減少し、講師(期限付)が多く、年度を経て進路指導の充実ができない/P T A雇用員、カウンセラーなど教諭以外のスタッフの活用が遅れている
- ・ コミュニケーションの減少(6)：対生徒、対教師いずれも学校5日制のための時間的な余裕の無さから意思の疎通、共通理解の確立がかなり困難になっている/学校5日制、新課程への対応さらには高校改革のあおりを受けて現場が多忙な状況である。そのため生徒に対する指導が後手に回っている感が否めない
- ・ その他(8)

【E】教師・学校組織に関する記述（記入件数35：普通 =12、普通 =14、総合=3、専門=6）

- ・ 教師の資質(21)：教師の指導力向上ノウハウに困っている/教師の意識、指導力をいかに高めるか
- ・ 組織運営(10)：学校全体の進路指導に対してコンセンサスがあまりないこと。個々の教員の教科指導、クラス運営等にバラツキがあり全体として大きな力になっていない/学校として、どこを目指すか、それに対する strategy はどうするのか等、具体的な所で集中した力にならない
- ・ ノウハウ共有・組織体制(4)：進路指導内の仕事、ノウハウの継承等が個人の負担と力量にかかっている点が困っている/進路指導ノウハウの先生によるバラツキが大きい

【F】進路情報に関する記述（記入件数32：普通 =13、普通 =15、総合=1、専門=3）

- ・ 情報過多だが情報不足(12)：現在情報があまりにも多くその情報を処理する時間・作業がない。その為学校側が宣伝用に出した情報が先行してしまう。入試の難易度の様に複数の業者で統一した角度で比較検討できる資料が必要/客観的な情報、信頼できる情報源と情報量が不足している
- ・ 上級学校の中身情報(9)：年々各大学の学部新設、名称変更等で内容が不明瞭な学部、学科名が増加/工学、理学系をはじめとして、大学での研究内容について事前に知る方法が少ない。(シラバスでは専門的すぎて生徒には理解できない)/専門学校が多様化、質の悪い専門学校の増加
- ・ 入試方式・入試科目の変更の多さ(8)
- ・ 上級学校卒業後の就職状況の情報不足(3)

【G】推薦入試等に関する記述（記入件数21：普通 =4、普通 =17）

- ・ 進学目的がなく、大学や短大に入ることだけがゴールになっている生徒が多く見られ、推薦で合格が決まってしまうと、それで終り、学習意欲が欠如している者が生徒、保護者ともに見られる/早期合格により、学力不足のまま、卒業してゆく生徒がふえた

【H】価値観の変化に関する記述（記入件数7：普通 =2、普通 =4、専門=1）

- ・ 先行世代の生き方が若い世代のモデルにはなりにくくなっている。右肩上りの時代とは違い未来志向の進路選択がなかなか困難になっている/成功の方程式が、有名大学に行くことでなくなってきた。それはそれでいいのだが、高校に求められているのは、未だに有名大学に何人入れたかという、単一の基準であるように思える/就職のための進学という風潮が高まり、本来大学で志すべき学問研究に対する意識が薄れている傾向が、生徒・保護者のみならず大学関係者にも見られる

【I】その他（記入件数25：普通 =5、普通 =14、総合=2、専門=4）

-
- * 掲載にあたり原文の趣旨はできるだけ尊重するよう配慮しましたが、スペースの都合で部分的に省略をさせていただきます。ご回答者の意図を十分に反映できていない場合には深くお詫び申し上げます。